

# 道岳連だより

広報 NO.67  
平成25年1月14日  
北海道山岳連盟

<http://www.hokkaido-HAA.net/>

## 2013年(平成25年)の年頭にあたり

北海道山岳連盟会長 小野 倫夫



新年あけましておめでとうございます。  
本年もよろしく願い申し上げます。

昨年は本連盟創立60周年記念式典・祝賀会を日本山岳協会、北海道体育協会、協賛各団体・企業など来賓の方、道岳連諸先輩のご臨席をいただき、会員合わせて130名を超え、盛会裡に執り行いました。

平成24年度事業では、日本山岳協会の自然保護委員総会の主管、指導委員会が10年来取り組んできた山岳スキー教程のDVDを完成させました。

遭対では、遭対協主催の「安全登山シンポジウム」に参加、減らない遭難事故を一般登山愛好者も含め、安全登山の啓発を図りました。

全道交流登山会は、札岳連主管で約300名が定山溪に集い、研修と親睦の輪を広げ、旧交を温めました。

国体では、ボルダリング、リードの種別で成年男女が2位、天皇杯、皇后杯はともに入賞、「はまなす国体」以来の快挙でした。

10月には、60周年記念事業として5名のメンバーによりネパール・クーンブ地方のカラパタルヘトレッキングを実施しました。

山岳会を取り巻く環境は厳しいものがあり、高齢化、少子化、不況と活動が低迷したり、解散の危機に直面している地方岳連や山岳会もあります。

国内的には、昨年12月の総選挙で政権交代となりましたが、原発問題を含め日本経済が上向きになるよう期待しているところです。

日本山岳協会神崎会長が「登山界について三つの分野、即ち卓越登山、健康登山、競技登山があり、ともに理解しあいながら活動することが将来展望を開くことになる」と言っておられます。

公益法人化した日本山岳協会の一翼を担う北海道山岳連盟としても会員の皆様のご理解ご協力のもと、各連盟や各山岳会の活性化、発展のために努力いたします。

是非ご意見、ご要望をお寄せください。

終わりになりますが、加盟団体がますます発展し充実した年になることを祈念して年頭の挨拶とします。

# 創立60周年記念式典・祝賀会を盛大に挙行

平成24年10月21日・ホテルライフオート札幌



1952年(昭和27年)発足の北海道山岳連盟60周年記念式典・祝賀会が10月21日開催された。式典は日本山岳協会、北海道体育協会、日本山岳会、日本ヒマラヤ協会、北海道勤労者山岳連盟、秀岳荘、ICI 石井スポーツなどの来賓・加盟団体の出席者合わせて130人を越えた。

神山理事長の開会宣言の後、山岳関係物故者に黙祷を捧げ、小野会長が式辞の中で60年の歩みとこれからの決意を述べた。

引き続き表彰を行い、道岳連の活動への貢献・協力に対し4団体3個人に感謝状、1個人に永年特別功労表彰、13名に永年功労表彰、4名に特別表彰、6団体2個人に社会貢献表彰である。

特別表彰の元会長(現顧問)阿地政美、国体代表の一安瑛子、地域貢献の三浦陽一の各氏から謝辞と今後の抱負があった。

来賓は神崎日山協会会長が海外出張中のため、八木原罔明副会長からいただいた。その中で北海道山岳連盟の活動への賛辞と期待、日本山岳協会の公益法人化移行の経過と課題、山岳界を取り巻く諸課題など、我々岳人として今後の指針となる内容であった。

その後、秀岳荘 小野浩二社長、日本山書の会 高橋光雄氏の特別講話があり、式は終了した。



日山協八木原副会長祝辞



阿地顧問に永年特別功労表彰

祝賀会は、道岳連顧問 鎌田耕治氏の発声で乾杯。祝宴に入り先輩、後輩、旧知など旧交を温める中、記念事業の報告、ショートスピーチ、ビンゴ大会などで盛り上がり、雪山賛歌大合唱で盛会に終わった。

北海道山岳連盟では60周年記念事業として、DVD「北海道の山スキー」制作と海外トレック「カラ・パタール・トレッキング」を企画した。DVDは道岳連指導委員会が10年に及ぶ山スキー研修の集大成で、今後山スキー愛好者の指導、活動に役立つと思われる。カラ・パタールトレッキングは50周年記念事業のエヴェレスト登山とは比較にならないが、今後の海外登山を着実に進める礎に

なると企画されたものである。

また、記念事業の一環として8月には第26回北海道山岳連盟交流登山会を札幌岳連主管で定山溪を中心に開催、9月は第36回日山協自然保護委員総会を招聘し、国立大雪青少年交流の家・十勝岳連峰で全国の仲間が自然環境保全に関する意見交換と交流を行った。

記念誌「北の岳友とともに60年」を発刊し、50周年以降の道岳連の歩みと、加盟団体の“思いいれの山”を特集する「一会一山」を掲載している。なお、残部があるので、ご希望の方には1部1,000円(送料込み)で送付します。申し込みは石丸事務局長まで。(電話&ファックス 011-583-3173)



祝賀会で和やかに懇談

## 創立60周年記念事業 ネパール・ヒマラヤトレッキングツアー

創立60周年記念の最後の事業として海外登山委員会が計画したトレッキングツアーは、工藤委員長をリーダーに5名の会員が参加して実施された。記念式典・祝賀会直後の10月25日に日本を立ち、エベレスト街道を経てカラパタール(5545m)登頂、その後チトワン国立公園ジャングルサファリを楽しみ11月17日に帰国する24日間のツアーを催行した。以下、工藤委員長の報告と参加会員のエベレスト街道紀行を紹介する。なお、トレッキングの詳細や写真は道岳連HPを参照願いたい。

10月25日小野会長と石丸さんのお見送りを受け、新千歳空港から出発。ソウルで一泊の後、翌日午後にかトマンズ到着。27日空路ルクラ入り、15日間のカラパタールトレッキングが始まった。昨年はこの空路が天気が悪く、20数日キャンセルが続くが順調に飛び幸先が良い。

天気や体調も良く順調に予定をこなす。途中、タムセルクやアマダブラムの6千mの山からエベレストやローツェなどの8千mの山々の姿が日々移り変わるのを楽しみながらのトレッキングだ。

11月4日予定通りの日程でカラパタールに到着する。目の前にエベレストをはじめとした山々にみんな感嘆。外国人が多くおり、狭い頂上付近は非常に込み合っている。記念撮影を気の済むまま行い、下山とする。復路も順調にルクラへ戻るが、利用予定のかトマンズ便の航空会社・政府航空局の都合でルクラ・カトマンズ間が混乱しており、1泊ルクラに宿泊してカトマンズに戻った。

後半のチトワンも現地ホテルの税滞納の問題で営業休止となっており、11月11-12日ポカラに2泊することになる。ポカラを観光し、13日チトワン国立公園に入る。2泊3日のチトワン滞在は、インドゾウと触れ合ったり、エレファントサファリ、川下り、ジャングルトレッキングと山とは趣を異にするもので、また別の楽しさがある。

11月16日早朝に3人がエベレスト観光飛行に足を運び、空からのヒマラヤの山々を堪能してくる。昼ごろにはカトマンズ空港から出国。ソウルに深夜到着後、空港のホテルに入り仮眠、17日の新千歳便に搭乗し、昼ごろ到着。神山理事長と石丸さんのお迎えを受け終了。全員、体調も良く天気にも恵まれ満足のいくネパール行と参加の皆さんが感じていることでしょう。(報告 海外登山委員長 工藤 寛)



エベレストビューホテル テラスで

## 世界で一番有名な街道を歩く

美瑛山岳会 内藤 美佐雄

道岳連 60 周年記念事業のツアーに乗っかり、エベレスト街道トレッキングに参加した。以前に購入したバックパッカー向けの雑誌に“エベレストを見て死ね”という特集があり、定年後には・と思いながら 3 年が経過していた。

街道の出発点はカトマンズから小型飛行機で 40 分程のルクラ村。山腹のわずかに広がる緩斜面に短い滑走路の飛行場がある。天気が悪いと欠航するので、計画段階でフライト予備日が必要らしい。ここから目的地のエベレストのビューポイント、カラパタルの丘(5545m)までの約 60 km を高度に順応しながら 9 日間かけて歩くことになる。最初の目標はシェルパの里ナムチェ、途中一泊するが、標高は 3400m を超えるので入口手前のつり橋以降の登りは結構きつい。ゾッキョをあやつる男たちの奇声、生活物資やトレッカーの重い荷を背負い、辛そうというわけでもなく黙々と歩く現地の人たち、活気あふれる街道のこんな風景にも感動させられる。ナムチェはロッジやレストラン、お土産屋などが立ち並び街道で最も賑わいを見せる。南端の展望公園やエベレストビューホテルのテラスから見る峰々は、ヒマラヤンブルーと呼ばれる乾期特有の青空に映え、圧倒的な迫力で聳え立つ。

切り立った山や深い谷を縫い、チベット仏教寺院が有名なタンボチェやパンボチェを経た 5 日目の宿泊地デンボチェは標高 4410m。夏に登った富士山をはるかに超えた。朝 8 時前後に歩き出し、14 時頃までに宿泊地入りして周辺の小高い丘などを登るという高所順化をほぼ毎日繰り返す。4000m を超えると樹木はほとんどなくなるので、牛の仲間のゾッキョやヤクの糞を乾燥させ燃料として利用している。朝晩かなり冷え込むが、ストーブは夕食時のみ、朝はダウンとニット帽で食事をとる。もちろん客室に暖房などないので水筒にお湯を入れてもらい、湯たんぽ代わりにした。ロッジ内の照明も日本人には随分暗く、ヘッドランプがなければ読み書きに苦勞する。



いよいよカラパタルに登る最終宿泊地のロブチェ(4920m)に入る。周辺はさすがに荒涼とした景観で、呼吸のリズムが狂うと苦しくなり、酸素が薄いのを実感する。道すがらレスキューのヘリが頻繁に飛び交い、未知の高度に不安もよぎる。

翌日早朝、ネパール式トイレの流し水に薄氷が張る寒さの中、ロッジを出発。4.5 km 先のゴラクシプ(5140m)を目指す。慣れてしまったがすごい風景の中を歩いている。エベレスト BC トレック最後の宿場でお茶を飲み、小休止後にカラパタルに挑む。登り始めて直ぐに体が重くなる。平地の半分になった酸素の中、ゆっくり登ってくれる工藤さんについていくのが精いっぱい状態なのだ。

身体は経験した高度を記憶し細胞が反応するというが、メンバー 5 人のうち 3 人は 5500m 以上の高所経験者で余裕が感じられる。エベレストを 4 回登っているという現地ガイドはともかく、初めてらしいアシスタントガイドの若い女性も涼しい顔で先に行く。やっぱりシェルパ族は高所に強い。自分はこの足元を見てひたすら歩を進めやっとの思いで頂上に着く。



カラパタルからのエベレスト(中央奥)

チベット仏教の五色の旗がはためき、トレッカーで満員の頂上からは、まさに“エベレストを見て死ね”の言葉どおりの絶景が広がっていた。

# 天皇杯・皇后杯ともに2位入賞

## 第67回国民体育大会ぎふ清流国体山岳競技

第67回国民体育大会ぎふ清流国体山岳競技会は9月30～10月2日にかけて岐阜市文化センターを会場に開催された。リード競技は文化センター外壁に設置された仮設壁、ボルダリング競技は同1階の屋内の仮設壁で実施された。

台風の接近で屋外壁のリード競技少年男女予選をそのまま決勝に読み替えるなど、大会日程や競技方法の変更対策が講じられた。男女総合成績(天皇杯)で北海道は3種別6種目で入賞を果たし堂々の2位。女子総合成績(皇后杯)は4種目で上位入賞の北海道と千葉県が大接戦を演じて、最後は3点差で千葉県が皇后杯を獲得し、北海道は2位となった。

北海道の天皇・皇后杯2位は昨年の5位、7位から大きく順位を上げ、「はまなす国体」以来の快挙となった。

### 派遣監督・選手・トレーナー

成年男子	監督	國谷 斗馬	選手	奥谷 和也	杉本 怜
成年女子	監督	長井 洋子	選手	一安 瑛子	萩原 亜咲
少年男子	監督	畑野 和宏	選手	菅原 宏介	大神田恭輔
少年女子	監督	一安 敏文	選手	佐々木里穂	小武 芽生
トレーナー		本堂 雄大			

### 競技結果

成年男子	リード	6位(入賞)	ボルダリング	3位(入賞)
成年女子	リード	4位(入賞)	ボルダリング	3位(入賞)
少年男子	リード	15位	ボルダリング	15位
少年女子	リード	3位(入賞)	ボルダリング	6位(入賞)
男女総合成績(天皇杯)		2位(昨年は5位)		5年連続7回目の入賞)
女子総合成績(皇后杯)		2位(昨年は7位)		3年連続8回目の入賞)



### 我らかく戦えり(監督の大会振り返りから)

**成年男子 國谷監督** … 今年少年から成年に上がってくる強い選手が多く、名簿を見た時点で男女ともに厳しい戦いになることが予想されていた。去年ボルダリング競技で優勝しているため、全

県の注目を浴び予選開始。選手の動きはいつもより硬く見えたが、3位で予選通過。決勝の動きは良いように見えたが順位をあげることができずに3位。

リード競技では、予選ギリギリ8位通過。年々課題は難しくなり、より高度な技術が必要とされてきている。8位という順位は決勝で順位を落とすことを気にせずに望める良い順位。決勝では思っていたとおりにプレッシャーもそれほど無く、杉本が個人順位同率1位と調子を上げ、6位と順位を上げることができた。

**成年女子 長井監督** … 今回は台風17号の影響で、山岳競技日程が変更、幸い成年男女とも競技日程の変更は無かったが、少年男女は大幅な変更となり、選手のモチベーションも一気に変わったであろう。

成年女子は、ワールドランキングTOPクラスの選手がエントリーしており、昨年優勝したボルダリング競技に関しては予選2位だったものの、課題設定がワールドクラスになったのか、最終的にはその選手たちがいる2県に勝てず3位で終えた。

リード競技に関しては、優勝候補の山口県選手が予選でハンガー(壁の角にある金具)踏みを取られ、まさかの予選落ち。萩原選手も成年女子で初めて予選完登もあり、6位で決勝進出となった。また、決勝では、兵庫が予選同様最終成績に変更が出て、北海道はまさかの4位となった。決勝は2人とも完登できなかったものの、萩原選手は残りわずかでフォールし、個人順位3位。一安選手も初めて被りを越えて核心部でフォール、個人成績10位タイとなった。

天皇・皇后杯とも山岳競技は2位となり、はまなす国体以来の上位となった。しいて言えば、皇后杯が3点差で2位という悔しい結果で岐阜国体を終えたことが今後の課題であると痛感した。

**少年男子 畑野監督** … リード競技は台風の影響もあり、一発決勝となった。菅原はテンポよく進みゴールまであと6手と迫り個人20位。大神田は27+まで進み個人32位かと思われたが、21手のところでバウンダリをとられ個人36位。ルートの的には12後半と言われていたが、全国上位の常連に比べ力強さ、ムーヴの正確さが不足していた。ボルダリングは特に強化してきた競技であり、上位入賞を狙った。ウェルカムと思われた1課題を菅原は一撃するも、大神田は苦戦。完全にペースを失う。2課題目も菅原は健闘するもゴール1手下で落ちる。3・4課題もボーナスのみでまさかの一完に終わり15位であった。道内高校生では敵なしの二人であったが、ハリボテの処理、ムーヴの対応等、経験不足が目立ち、悔しさが残る大会であった。

**少年女子 一安監督** … 結果だけ捉えるとそんなに悪い成績ではないが、個人的にはボルダリング競技により重点を置いてトレーニングしていたので、6位だったとしても悔しさの残る大会だった。

ボルダリング競技では決勝に進んだものの、第一ラウンドで敗退。個人成績では小武が8位。佐々木が14位。リード競技では大会中の台風の影響により少年少女は急遽予選を中止、日程を変えて最終日に全県での一発決勝となり3位に入った。個人順位でも小武が3位、佐々木が8位と健闘してくれた。

## 行事・各委員会事業報告

### 第2回理事会 10/21 ホテルライフオーポート札幌

平成24年度北海道山岳連盟第2回理事会は、北海道山岳連盟創立60周年記念式典に先立つ午前10時より同ホテルで56名の理事が出席して開催された。議件として1号議案 平成24年度前期事業報告 2号議案 平成24年度後期事業予定 3号議案 各種議題 4号議案 その他が提案された。

神山理事長は平成24年度の前半を振り返り、活動重点目標の各山岳団体との連携・山岳指導員の活用・山岳界活性化と未組織登山者への対応では、平・23年度の反省がそのまま引き継がれた状態

とし、道岳連への個人加入の具体的な検討を行う時期に来てしていると述べた。

また、後半期に向けては、年度初めに定めた目標達成に向けての方策として、①現在の事業をより充実し、参加者の増加を図る…現行事業の情報が会員一人ひとりに届くよう要請する ②連盟事業について一般登山愛好者にも門戸を開く…先行的に実施部分もあるが、さらにPRをしていく ③会員数の増加を図る…個人会員加入については、長所・短所が種々考えられるので今後とも検討していく をあげている。

議案審議では、道岳連管理運営規則の中の第5条1項と4項の整合性を図るため、専門委員会の構成を「常任委員」に統一する提案がなされ、出席理事からは「常任理事だけで構成するのは適当ではない。一部の人間で運営するのはどうなのか」「一部の人間で決めている訳ではなく、年3回の理事会で論議し決定しているので問題はない」「定例の常任理事会の議事録を理事会で配布するよう取り計らい願いたい」「各山岳会に専門委員会の委員を委嘱しているが、出てこれない部分もあり自分の会の会員に協力を願っている」などの質疑・意見が出されたが、他の提出議案同様出席理事の賛成多数で承認された。

また、7月26日付、道岳連三役及び競技委員長、指導委員長宛にレインボークラブ 江崎幸一代表から提出された「公開質問状に対する回答」書が出席理事に配布された。

理事会における提言により、道岳連HPに「平成24年度第7回常任理事会」からの議事録を掲載しています。是非ご覧ください。

## 北海道トレイルランニング大会 2012 10/22-23

北海道アウトドアフェスティバル in ルスツ 2012 は、9月22～23日の両日にわたりルスツリゾートスキー場及び貫気別岳周辺で開催された。公式リザルトはトレランWebページで公開されているが、各種目一位の選手を掲載する。

50km	(男子)	市原 宏基(チーム富士)	6:08:19	(女子)	鈴木 公子	8:24:22
30km	(男子)	吉田 圭伸(TEAM NPS)	2:55:50	(女子)	フレンチ幸子(Happy フレンチズ)	4:29:14
15km	(男子)	堀 一行(サティーン)	1:21:14	(女子)	神 麻美(川又塾)	1:59:06
5km	(男子)	野中 歩(札幌西高)	28:08	(女子)	川西 望生(STAGE)	36:25
3km	(男子)	吉野 寛壺(長万部 JC)	15:14	(女子)	三橋 桃子(西部小)	19:45

### トレラン2012 報告

実行委員長 佐藤 真

(総括) 一時的な降雨もあったが、おおむね天候にも恵まれ、けが人もなく無事終了した。コース役員も的確に業務を果たした。ミスコースによるリタイヤ者もいたが、本人のミスと自覚をしていた。おおむね成功とあって良いだろう。参加者278名と前年を上回ったが、目標の300名には届かなかった。これは始動が遅かったことと、昨年の選手誘導ミスが参加者の支持を失ったため、リピーターが少なかったためと考えられる。しかし、新たな参加者で前年を上回ったということは、トレイルランニング人口の増加を示すものとして前向きにとらえたい。以下に実行委員から寄せられた今年度の問題点をあげるが、これらを次年度に生かし、参加者の増加を図りたい。来年度は9月22日(日)を開催日として予定している。

(問題点) 1. コース役員の撤収を競技打ち切り時間の2時間前には終わるのではないかと考えていたが、さすがに50kmの選手は時間いっぱいかかり、最終ゴールは制限時間5分ほど前であった。お手伝いいただいた皆さんには大変ご迷惑をかけたお詫びをする次第である。しかし、来年以降もこの時間帯になることは予想されるので、役員配置等に工夫をしたい。

2. コース案内の看板は見やすかったが、コースを示す紅白のテープの裏が白で見にくかった。

3. 区間賞を複数設定したが、同一人物に集中した。
  4. ゴール後、焼き肉を有料で設定したが、時間設定で食べられない参加者が多く、払い戻した。
  5. リタイヤ者の処理が悪く、長時間所在が分からなかった選手がいた。事故に備え携帯電話の所持を義務付けたが、留守番電話設定になっていた。
  6. 競技者側の委員から 70 km 設定の必要性があげられた。70 km 完走を条件とする有名レースが増えている。
- ★11 月 22 日の実行委員会で、次年度大会からカテゴリーに 70 km を追加することが決定された。



50 km スタート

○世界最高峰の大会であるツール・ド・モンブラン等が、参加資格として 70 km 2 回を要求することとなり、道内でもこの距離の大会の必要性が生じた。70 km のレースにより、道内他の大会、特に 2 週間前に行われる NAC の大会との差別化が図れること、また、課題である道外からの参加者の増加が期待できることもあり 70 km を追加した。

## 第 51 回全日本登山体育大会福井大会 10/27-29

51 回目を迎えた全日大会は、10 月 27 日～29 日まで福井県の最高峰荒島岳(1523.5m)ほか 5 コースで開催され、道岳連からは小野会長、荒堀普及委員長、佐藤自然保護委員長が参加した。



1 日目は福井市の「福井県民ホール・アオッサ」で開会式、会場の特設コーナーで道岳連制作の山スキー DVD を販売した。参加者約 180 名、大会役員約 140 名の総勢 300 名弱(役員不参加者除く)。

2 日目は、70 名で B コースの荒島岳に向かうが、低気圧通過中の登山で、小雨だが風が強く石楠花平(1200m 付近)で本隊は登頂をあきらめ下山。閉会式は、芦原温泉で交流会を兼ねて行われた。次年度は茨城県で開催。

## 遭難対策委員会

### 冬期遭難対策研修会 12/8-9 三段山・吹上温泉保養センター

平成 24 年 12 月 8～9 日、遭難対策委員会では、十勝岳連峰三段山登山口において、冬山シーズン初めに研修会を開催し 20 名が参加しました。

一日目、午後野外においてビーコンを使った捜索研修を行いました。それぞれ 3 班に分け、雪原において班ごと 30m 程離れた地点にビーコンが埋められ、三箇所において一人ずつ 5 分以内に探し出すもので、発信器を三方向に向きを変え、受信機の手向によって電波の強弱があり、カウントされるためあせり、なかなか探せない場面もありました。

次の浅い雪原での避難のための雪洞づくりでは、穴をあまり深く掘れないため、雪だまりや風当たりの弱い森



思い思いの雪洞掘り

の中に皆思い思いに穴を掘り、風が入らないようツェルトをかぶせ、寒さ対策に工夫を凝らし、40分程度で穴を掘り避難場所を確保しました。

終了後、皆で完成した雪洞を一つずつ評価し、それぞれの穴には個性があり自己説明に皆納得したり、笑い！

室内研修では、今年の遭難状況と死亡者の多くに低体温の症状が見られるなど報告されました。引き続き低体温症研修では、低体温の症状確認と対応処置、部屋にシートを敷き収容の方法について研修しました。

夕食は、和室に一同が会し、すき焼き鍋に舌鼓を打ちながら一人ひとりの自己紹介と近況について一言を言ってもらい楽しい交流会が過ぎました。

二日目、昨夜のうちに50cmの降雪があり、8時より三段山の一段目の斜面において、雪崩遭難を想定し、救助訓練を行いました。安全を確認しスキーで軽く踏み固めた急斜面を上方からビーコンとゾンデの搜索、下方からの掘り起しの手順を行い、遭難者収容の取り扱い、低体温症の対応をしながら搬送までを繰り返して、昼までに研修を終了しました。



埋没箇所の特定訓練

上富良野吹上温泉保養センター白銀荘は湯量が豊富で冷えた身体が温まり、気持ちの良い温泉でした。

(報告者 遭難対策委員長 斉藤 邦明)

## 国体・クライミング委員会

### 第11回スポーツクライミング北海道選手権大会

兼第3回全国高等学校クライミング選手権大会北海道予選会

兼第53回札幌市民体育大会クライミングコンペ 10/28 北海道工業大学体育館

参加者数 選手 オープン 11名 オープン女子 2名 ジュニア男子 39名  
 ジュニア女子 9名 ビギナー 12名 キッズ 8名  
 選手計 81名 競技役員 25名 選手・役員合計 106名

#### 大会成績（入賞者）

《オープン》 1位 一安 敏文(元老院) 2位 小武 芽生(札幌宮の丘中3) 3位 青木 寛敬(レインボークリフ)	《オープン女子》 1位 山下ちひろ(登攀道場美唄) 2位 吉田 郁子(登攀道場美唄)
《ジュニア男子》 1位 菅原 浩介(遠軽高3) 2位 森谷 亮太(遠軽高2) 3位 小山 彬(札幌稲雲高1)	《ジュニア女子》 1位 井上 未来(遠軽高3) 2位 西村 鮎美(札幌清田中I) 2位 佐藤いぶき(札幌中の島小6)
《ビギナー》 1位 甲斐 佑人(酪農学園大1) 2位 鈴木 康太(北海道工業大3) 3位 殿山 竣涼(富良野緑峰高1)	《キッズ》 1位 竹内 悠真(札幌川北小4) 2位 工藤 未柚(札幌幌東小4) 3位 鈴木 悠月(札幌幌西小5)

《スピード競技》

1位 清水 啓博(遠軽高2)	2位 渡辺 悠(酪農学園大2)
3位 中野 貴仁(遠軽高2)	3位 鈴木 拓矢(遠軽高2) ※3位は同着

全国高等学校クライミング選手権出場選手

《男子》菅原 浩介(遠軽高)	森谷 亮太(遠軽高)	《団体男子》遠軽高	
《女子》佐々木里穂(北海学園札幌高・日山協推薦選手)	井上 未来(遠軽高)	橋本 菜稀(遠軽高)	《団体女子》遠軽高



平成24年度北海道山岳連盟ユース強化指定選手

道岳連強化選手指定方針に基づき、北海道選手権大会の成績を基準として、来年の国体予選会まで9ヶ月のスパンで強化する選手を次の通り指定した。当面3月までは札幌市のジムを中心に強化練習と合宿を数回実施する。

《男子》

森谷 亮太(遠軽高2)  
小山 彬(札幌稲雲高1)  
岸本 武蔵(美唄東中3)  
松浦 凌(遠軽高1)  
石田 拓也(富良野緑峰高2)  
野田 龍二(遠軽高2)  
高木 智和(札幌緑陽中3)  
白戸 隆雅(札幌八条中3)

《女子》

小武 芽生(札幌宮の丘中3)  
佐々木里穂(北海学園札幌校1)  
西村 鮎美(札幌清田中1)  
佐藤いぶき(札幌中の島小6)  
亀田 桃子(遠軽高1)

男子8名 女子5名 計13名

## 今後の諸行事

### 氷壁技術講習会 海外登山委員会・指導委員会

1. 期 日 平成25年1月19日(土)～20日(日)
2. 会 場 層雲峡 銀河の滝周辺 宿泊 ペンション銀河
3. 対 象 道岳連加盟団体会員(初心者歓迎) 募集定員30名(締切 1月10日 期日厳守)
4. 参加費 15,000円(宿泊代・夕朝食代、講習会費含) ※キャンセルは実費徴収
5. 日 程 1月19日(土) 11:00 銀河の滝駐車場集合 12:00-15:00 基本動作確認～宿舎移動  
19:00- 机上研修  
20日(日) 8:30-14:00 技術レベルに応じたコースでの登攀～現地解散

6. 申込み 所定用の紙に記入し Fax 又はメール(参加料振込は 1月17日まで)  
 問合せ・申込み先 工藤 寛 Tel&Fax 011-386-2725 (7:00~20:00)  
 e-mail elm-yama@h7.dion.ne.jp  
 振込先 郵貯 ぱるる 記号 19090 番号 37051291 口座名 北海道山岳連盟国際部
7. 携行品 昼食、行動食、長靴(川渡渉用)、ストック、冬装備、ヘルメット、ハーネス、アイゼン、  
 アックス類、クライミンググローブなど(貸出装備あり⇒要問合せ)

## 山岳スキー技術講習会 指導委員会・山岳スキー運営委員会

1. 期 日 平成25年1月26日(土)~27日(日)
2. 会 場 富良野スキー場及び三段山 宿泊 吹上温泉保養センター白銀荘 0167-45-3251
3. 対 象 道岳連加盟団体会員 募集定員20名(締切 1月12日 期日厳守)
4. 参加費 8,000円(一泊二食) ※富良野スキー場ゴンドラ代金個人負担  
 懇親会乾杯用飲物分徴収、嗜好品は各自持参
5. 日 程 1月26日(土) 8:45 新富良野プリンスホテル ゴンドラ乗場集合  
 9:00-15:00 グレンデで滑降~宿舎移動  
 27日(日) 8:00-14:30 三段山深雪ゾーン滑降~現地解散
6. 申込み 森 紘昭(帯広山岳会)宛に Fax 又はメール  
 Tel&Fax 015-572-3272 e-mail hiroakim@lapis.plala.or.jp
7. 携行品 26.27日昼食、行動食、スキー用具一式、三段山地形図、コンパス、シャベル、  
 ビーコン、ゾンデ棒、ルート旗(持参できる人)、その他(防寒衣、洗面用具など)

## 冬山講習会 普及委員会

### 第1弾 ニセコ

1. 期 日 平成25年2月2日(土)~3日(日)
2. 会 場 ニセコ・チセヌプリ周辺 宿泊 国民宿舎「雪秩父」0136-58-2328  
 《1日目⇒チセヌプリスキー場周辺 2日目⇒チセヌプリ登山》
3. 対 象 道岳連加盟団体会員及び一般登山愛好者  
 募集定員25名(山スキー 15名 スノーシュー 10名 (参加料振込期限 1月19日))
4. 参加費 15,000円(一泊二食宿泊費、講習料、傷害保険料) ※道岳連会員 13,000円
5. 日 程 2月2日(土) 9:30 チセヌプリスキー場リフト乗場2階無料休憩所集合~打合せ  
 10:10-15:00 山スキー班、スノーシュー班別に実習開始~宿舎移動  
 16:00-18:00 机上講習会  
 3日(日) 9:00-15:00 班別に読図、深雪滑降及び登山~現地解散
6. 申込み 荒堀 英雄(普及委員会)宛 Tel&Fax 0155-36-2226 e-mail tomhero@eagle.ocn.ne.jp  
 振込先 郵貯 記号 19050 番号 39987961 加入者名 北海道山岳連盟  
 一般金融機関から振込 店番 九〇八 口座番号 3998796  
 ※メール、電話で申し込み後、2週間(1月19日)までに振込分を正式参加とする
7. 携行品 26.27日昼食、行動食、山スキー・スノーシュー用具一式、地図、コンパス  
 その他(防寒衣、洗面用具など)、用意できる人 ビーコン、ゾンデ棒、スコップ

## 第2弾 日高

1. 期 日 平成25年3月2日(土)～3日(日)
2. 会 場 日高国際スキー場・日勝ピーク周辺 宿泊 国立日高少年自然の家 01457-6-2311  
《1日目⇒日高国際スキー場周辺 2日目⇒日勝峠～日勝1445ピーク登山他》
3. 対 象 道岳連加盟団体会員及び一般登山愛好者  
募集定員25名(山スキー 15名 スノーシュー 10名 (参加料振込期限 2月16日))
4. 参加費 12,000円(一泊二食宿泊費、講習料、傷害保険料)
5. 日 程 3月2日(土) 9:30 日高国際スキー場リフト乗場無料休憩所集合～打合せ  
10:10-15:00 山スキー班、スノーシュー班別に実習開始～宿舎移動  
16:00-18:00 机上講習会  
3日(日) 9:00-15:00 班別に読図、深雪滑降及び登山～現地解散
6. 申込み 7. 携行品は第1弾 ニセコに同じ  
※メール、電話で申し込み後、2週間(2月16日)までに振込分を正式参加とする

## 日山協競技委員会フック別研修会 競技委員会

1. 期 日 平成25年2月16日(土)～17日(日)
2. 会 場 道立深川青年の家 宿泊 同 左 0164-25-2059
3. 対 象 ①クライミング競技C級審判員資格認定希望者 ②国体競技運営員資格認定希望者  
③国体競技運営員資格認定者で運営研修希望者 ④山岳競技に興味のある方  
募集締切 1月10日(木) 必着
4. 参加費 6,000円(宿泊料、受講料、テキスト代ほか)
5. 日 程 2月16日(土) 12:30-13:00 会場(深川青年の家)で受付  
①クライミング競技C級審判員資格認定研修 10.5時間(1時間は筆記試験)  
②国体競技運営員資格認定研修 8時間 ③競技運営研修 8時間  
17日(日) 研修終了 ①15:00 ②③12:00
6. 申込み 山納 秀俊宛に申込書を郵送又はメール  
〒006-0853 札幌市手稲区星置3条8丁目8番10-404号 山納 秀俊 宛  
TEL 090-2816-2241 e-mail h-sannoh@hokkaido-c.cd.jp
7. 携行品 筆記用具、上靴、洗面道具(タオル、歯ブラシ、石鹸、シャンプー)、着替えほか

## ..... DVD好評発売中 .....



会員価格 2,250円  
(申込み先)  
明田指導委員長  
☎011-722-8758

道岳連だより 北海道山岳連盟広報 No.67 平成25年1月14日発行  
発行 北海道山岳連盟 事務所 札幌市豊平区平岸2条9丁目1-47-502  
発行責任者 小野 倫夫 編集担当(総務) 内藤 美佐雄